

# 福島第一原発事故に伴う放射性物質スクリーニング

志田賢二

生産構造技術系

## 1 はじめに

福島第一原子力発電所事故による放射性物質の飛散に伴い、放射性物質による外部汚染のスクリーニングに対する支援要請が文部科学省よりなされた。筆者は日常、放射線業務に従事してはいないが、第三種放射線取扱主任者資格を所有している。資格取得時に放射線測定技術についての実習を受けていたことから必要時には支援が可能であることを申し出た。平成23年8月6～7日の2日間の協力要請があり避難勧告区域に一次帰宅する住民を対象としたスクリーニング作業に従事した。

## 2. 派遣内容

平成23年8月5日に福島入りし、19時より福島県庁にて翌日の作業内容について説明を受けた。

8月6～7日の2日間ともに福島県庁発6時50分発のバスに乗り現場へ向かった。担当した現場は広野町中央体育館（福島県双葉郡広野町）、2日間で400名近い方々および持帰り荷物のスクリーニングを実施した。現場ではOFC医療班の指揮の下、一時帰宅される住民の方の健康状態をチェックする問診表の配布および回収、DMAT（災害派遣医療チーム）への報告作業を受け持った。避難住民の方にはご高齢者も多く、気温30℃を超える酷暑の中、体調不良を押しての一時帰宅に健康面での不安を訴えられる方も少なくなかった。

一時帰宅された住民の体育館への帰着時刻に合わせてスクリーニングエリアに5ヶ所のレーンが用意された。スクリーニング作業時はタイベックスーツを着込み、ゴム手袋、帽子、マスク着用した。動きにくく非常に暑い。同じ服装で3～4時間の一時帰宅している住民の方々の大変さを改めて実感した。

各地の大学（7大学23名：両日のべ）より派遣されたメンバーで2レーンを担当しスクリーニング作業にあたった。両日共に拭き取り除染が必要となる13,000cpmを超える放射性物質は検出することはなかった。住民の方に安心していただくためにサーベイメーターの数値を確認していただき、安全であることを十分に説明させて頂いた。自己管理用に作業時に身に付けていた線量計の数値は両日ともに0.36 $\mu$ Sv/hであった。

## 3. まとめ

震災から少しずつ復興し始まった時期ではあったが、一方で原発事故の避難住民の皆さんの心情は察することができない程、悲痛なものであった。しかしながら、作業中に多くの方々から「暑い中ご苦労様です」、「熱中症に気をつけてください」との言葉を頂き逆に励まされる思いであった。

目に見えない脅威として放射線は正確な情報が伝わりにくい。農産物や避難住民への風評被害その最たる例である。この度の派遣で目の当たりにした状況を日頃、研究、教育活動で放射線従事者として放射線を扱う学生へ伝えることも必要ではないかと考えた。先の見えない状況ではあるが、一刻も早い福島第一原子力発電所事故の終息を願わずにはいられない。